動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉 [illegible]番

90.2.23 No. 3167

永島（千葉転 革マル）は良い子!?

大暴れ職場放棄の永島を擁護する当局

浜野支部長を即津田沼へ戻せ

津田沼浜野支部長に対し不当処分と強制配転を強行した千葉支社は、その一方では、大暴れし職場放棄した千葉転革マル永島を今なお全面的に擁護しつづけている。

事実を再度、明らかにしよう。

永島は、一月九日は特休であったが、病欠者が出たので、休日出勤に応じ出勤し点呼を行っていたが、他の乗務員が帰着点呼を行うために一担、永島の点呼は中断した。すると、激情した永島は、助役のエリ首をつかんで暴れだし、あげくのはてには、仕事を放棄して帰ってしまった。この一部始終を詰所にいた多くの乗務員が見ているのである。

しかし、この永島がのうのうと今なお乗務しているばかりか、支社は事件のもみ消しさえ図ろうとしているのである。

いわく「暴力はなかった」「勤務中に帰ったことは事実だが、感情のいきちがいがあったのではないか」「浜野と永島ではふだんの態度がちがう」「良い子が一度あやまちを犯したからといって、すぐおし置きはしない」（二月十七日、団交の席上での当局発言）

なんと！「永島は良い子」だから、何をやっても免がれるのだと！

これが、当局と革マルの野合の姿だ。われわれは断じて、このような千葉支社の姿勢を許さない。JR総連・革マル解体・一掃にむけ全組合員はたちあがろう。

2.22 280名結集 ストライキへ 決意 うち固める 詳細次号

2.16（87）から丸3年

労働運動の命運かけ

八七年「二・一六」から丸三年、清算事業団の仲間たちは、長く辛い毎日に耐え、闘いつづけ、今怒りも新たに二・三月を迎えている。

時の政府・中曾根は「一人も路頭に迷わせない」と何度も言明、改革法案制定時の附帯決議にもなっている。それを政府自らが破り労働委員会の救済命令をも守ろうとせず、「三年間の期限」を口実に、再び解雇を強行し、事業団の仲間とその家族を路頭に放り出そうとしているのだ。

こうした問題の根源こそJR当局とJR総連革マルの結託体制だ。

今、求められているのは諸悪の根源＝JRとJR総連結託体制をつき崩し、十二名の仲間を取りもどすために、JR本隊の組合員が職場生産点から全力でストライキに起ちあがることである。

国鉄労働運動の命運をかけて、二・二六からのスト貫徹へ！

あまりにも目茶苦茶な当局

約束さえも反故（ホゴ）

千葉支社の団交無視、ダイ改強行策動への怒りは、現場に充満してきている。

作業ダイヤも、労働条件も提示せず、「会社が決めたのだからやれる」（！）と平き直る当局。強制配転の原職復帰についても、昨年の三月ダイ改の際に集約確認した「配転期間も考慮する」という確約さえ放棄し、「考慮するということと、実施することとは、別問題」と平き直り、「乗務員賃金の格差が切れることは、会社側も認識している」と明言しておきながら、今になってそれを反故にしようとしているのだ。

われわれは、こうしたJR当局の目にあまる横暴、強権的姿勢をこれ以上、放置することはできない。

安全無視、組合潰し優先の千葉支社に、現場の怒りを叩きつけよう。